



新年に望み

広報担当副会長
玉城 信光

また1年がすぎてしまい、新しい年になった。県医師会としてやる事がたくさんあり、広報委員としての仕事は少なかったかもしれない。昨年は広報委員会にとり大切な出来事があった。広報委員会担当職員の異動があったことである。平木さんから知念さんへ変わった。慣れない仕事ではあるが、職員の配置換えにより、より多くの知識と技量が付加されてくる。県医師会職員はますます能力が高くなるであろう。

その証拠の一つに北部医療圏の改革のための会議が北部広域市町村事務組合の中でもたれるようになった。県医師会が北部地区の産婦人科医師確保のために汗を流したことにより、北部広域市町村事務組合から職員の派遣を要請されたのである。月に数回名護での会議に出席している。県医師会職員の能力の高さを評価して頂いた。

今年は九州医師会連合会の種々の会議が沖縄でもたれる。執行部、事務局総力を挙げて成功させなければならない。11月には九州医師会医学会も開催されるので各分科会の役員、会員のご協力をお願いしたい。

現在脳卒中や糖尿病の連携事業が行われているがそれを中心にしながら医療クラウドによる情報の集積をはかる事業を模索している。浦添では在宅医療の連携がIT化されつつあり、那覇市医師会では健康情報の受診者への提供をモデル事業として行っている。これらを総合する形で医療情報のクラウド化をはかりたいものである。健康情報、医療情報が集積されると沖縄県の保健医療計画、病診連携、遠隔医療情報の伝達などあらゆる事業に展開できそうである。しかも皆が3千円から5千円/月で利用できる様にしたいものである。

医療情報の集積は国が行おうとしているゲノムコホート研究の土台にもなるし、治験ネットワークの大事な柱にもなる。

シミュレーションセンターの広報が会報に載るようになった。沖縄県の研修群で有効活用し沖縄の医療のレベルアップに貢献したいものである。そのための広報委員会の役割は大切である。どのようなプログラムがあり、自分の病院のスタッフの勉強に役立つプログラムの開発をお願いしたりすることができる。

今年は重粒子線治療の実施計画に向けた動きが加速していく。医師会会員が重粒子線を理解して頂いて、沖縄県に先端医療を誘致するために応援して頂きたいものである。重粒子線とは炭素を使い光の80%まで加速して、腫瘍に照射するのであるが、ターゲットを絞ると周辺の正常組織が損傷を受けることがないのである。X線より集中度が高く、エネルギーが2~3倍なので照射回数を減らすことができる。実用化されているのは日本しかなく、沖縄で設置できると全国で6番目になる。沖縄の医療の未来像を描くことができる。会員のご支援をお願いしたい。

来年度の沖縄県における研修医のマッチングは全国で2番目に高い数値になった。これも3つの研修群が協同で研修医の獲得、研修制度を立派なものに作り上げてきた成果だと思う。ますます良い協力体制を構築したいものである。

県医師会の種々の事業を紹介していくのが広報委員会の役割である。広報委員会の一員として今年も頑張っていきたいものである。





新年のあいさつ

広報担当理事
本竹 秀光

新年あけましておめでとうございます。私は昨年4月から沖縄県公務員医師会の代表で沖縄県医師会の理事となり、県医師会の業務に参加してまいりました。初めは慣れない業務に戸惑いながら先輩理事や事務方の協力で何とかやっていくことができました。本当に感謝しております。現在広報の担当が中心ですが、医事紛争の副担当理事も務めております。医事紛争に係って感じたことをすこし述べたいと思います。一生の中で医事紛争の当事者にならないことにこしたことはありませんが、しかし、いつ何時自分の身に降りかかるかはわかりませんし、臨床の中で合併症や患者さんを失うなどの重たい経験は避けて通ることはできません。そうならないための臨床技術を身に着ける生涯教育は基本中の基本ですが、それでも100%患者さんを治してあげることができないことは事実です。一般に医事紛争は治療の結果によって起こると思われがちですが、実際は治療の過程が問題で起こっていることが少なくありません。いわゆる古言の“医は仁術”と言う言葉が時代は変わっても重要であることを感じます。私をはじめ多くの先生方は大学の医学教育の中で医事紛争なる講義は受けてこなかったと思います。患者さんの権利意識が強くなった昨今、医事紛争は増えこそすれ減ることは無いと予測されます。医学教育の中に患者さんとのかわりを教育する部門が強化される必要があると痛感しています。沖縄県医師会の医事紛争委員会の稲田理事は今年度、琉球大学の学生を対象に医事紛争についての講義を行いました。好評であったようです。先生のこの活動は時代の先取りであるし、ますますの活躍をお願いすると同時に、私も副担当理事としてお手伝いしていきたいと考えています。新年を迎えるに当たり今年の抱負を述

べたいと思います。沖縄県は先の大戦で焦土化し、医師数60名弱、何もない劣悪な医療環境から67年で他府県に勝ると劣らない医療環境を作ってきました。先達たちの血のにじむ努力の上に今があると感謝するものです。この中で他府県に勝るものの一つが医師の人材育成と考えています。私が勤務する県立中部病院は1967年からその中心をなしてきましたが、これからも琉球大学や他の教育医療機関と連携して、日本の中で際立った人材育成制度を持つ県として継続発展できるよう、施設として、一指導医として尽力したいと考えています。沖縄県は日本復帰後医師の人材育成のために多額の助成を行ってきました。これも他府県には類のない制度であり、県民の一人として沖縄の誇りと感じています。沖縄県にはこの医師人材育成制度の更なる充実を図っていただけるように理事として発言してまいりたいと考えています。



新年の挨拶

広報副担当理事
玉井 修

会員の皆様あけましておめでとうございます。昨年あまりの低視聴率によって物議を醸したNHK大河ドラマ『平清盛』を一年間ずっと見ていました。画面が汚いとか、ストーリーが解りにくいとかの否定的なご意見が多かったのですが、僕は毎週大変楽しみにしていました。若く、血気盛んな時代に時流に乗り保元・平治の乱により時代の寵児となってついには朝廷を凌ぐほどの権力を握って福原遷都まで成し遂げようとする時期に、既に破滅への萌芽は始まっており、老いと、死とが迫り来る中で一族の破滅への予感へ焦燥の思いを募らせる歴史の流れは見ていてゾクゾクします。この世をおおらかに生きようとしていた清盛が、多くの利権や財産を持つ事によって自ら精神を病み、破滅して

いく様は現代の物欲に駆られた人の生き方に通じるものがあります。絶大な権力と財力を持ちながら、老いと死との前には全くの無力である人の本質が見えてきます。

最近マスコミを賑わす美魔女と言われる女性達を見ていると、何だか平清盛を連想するのです。高額なサプリや機械によって、年齢に不相応な若い外見を身に纏った彼女たちも、一皮剥けばただの人。衰えていく脳細胞の加齢変化には購いようもなく、無常のこの世は一瞬のうちに人の欲を打ちのめしてしまうのでしょうか。日々衰えていく我が身もまたしかり。せめてジタバタせず、穏やかに毎日自らの新しい一日を生きて行こうと思っております。



癸巳の年を迎えて

広報委員（北部地区医師会）
出口 宝

新年明けましておめでとうございます。

私事ですが、京都の実家では毎年元旦には千十二支による干支の謂れやどのような年になるのかを聞かされてきました。そして、その年に期待をしたり気をつけようなどと考えたりしていました。

今年の干支は30番目の**癸巳**（みずのとみ）です。**癸**は十干の10番目で陰陽五行では「水」性の陰だそうです。また**巳**は十二支の6番目で陰陽五行では「火」性の陰だそうです。前回の1953年の**癸巳**には全国各地で水害が発生し死者行方不明者約3万人、全半壊家屋約5万5千戸の被害が発生しています。そして、阿蘇山が大爆発しています。今年の**癸巳**ではこのようなことが無いように願うとともに、もしもの災害に対する備えをしておきたいと思っております。新年早々から少し暗い話題になりましたが、一方、**癸巳**は物事の順序を立て新しい出発をする年廻りで、一つの物事が終結して新しい事象が

スタートを迎える年だそうです。**巳**は物事が終結して新たな出発することを意味し、**癸**は原理原則を立て順序にそって一致協力して進めていくことを意味するのだそうです。1953年の**癸巳**には日本航空株式会社法の公布に基づき旧日本航空株式会社が解散して、新しい日本航空株式会社が誕生しています。また公衆電話が黒から赤に変わっています。そして、沖縄、宮古、八重山の3群島医師会が合併して沖縄医師会となったのもこの年です。今年の**癸巳**には何かあるのでしょうか、期待したいと思っております。

さて、吉田茂首相の「バカヤロー解散」も1953年の**癸巳**でした。年末には衆議院が解散となりましたが、昨今の政局をみていると「…」と言いたくなるのは国民の方ではないでしょうか。今年も何かと「バッカじゃなかるか」（1953年の**癸巳**、トニー谷）と思うことがあるかも知れませんが、「むちゃくちゃでござりまするがな」（1953年の**癸巳**、花菱アチャコ）と言わずにすむような年になることを願っています。

最後になりましたが、今年は**癸巳**の謂れに気を引き締めて、また希望をもって広報委員を努めさせて頂きたいと思っております。今年も会員の皆様に手に取って読んで頂ける会報誌づくりを目指したいと思っております。今年もよろしくお願い致します。



新年にあたって

広報委員（中部地区医師会）
富名腰義裕

新年おめでとうございます。

昨年4月に中部地区医師会の理事、そして県医師会の広報委員となりました。平成元年に医師となり勤務医を続けてきましたのでご他間にもれず医師会活動には関わってきませんでした。先輩の勧めもあり何かやらないといけないという気持ちは少しずつ高まってきていました。

広報委員の仕事は医師会報の発行を中心とする対内広報と地元2紙へ掲載する記事集め、マスコミ懇談会と県民向け講演会やシンポジウムの企画をする対外広報です。

医師会報は毎月発行されますが、印刷前に全員でチェックを行ない発行後にはできばえを確認します。私自身これまでは興味のある記事しか読みませんでした。しかし、委員には記事の査読という仕事があります。これには当然時間を割くわけですがいいことが2点あります。割り当てられたものを読むので選り好みができませんが、真剣に目を通します。その中ではっと気づかされるものがしばしばあります。また、一番に読むことができる優越感のようなものも体験できます。

こうしてひとつの雑誌が出来上がるまでには事務局の奮闘、委員のチェックがあるわけですが、何より会員の皆様からの原稿の一つ一つが生命の源になっています。今後も執筆依頼がありましたら快くお引き受けいただきますようお願い申し上げます。

さて、私は今年50歳になります。40代後半の5年は膝・肩の痛みで苦しんできました。それまではちょっと痛めてもすぐに回復しましたが、右膝・左膝そして右肩・左肩と順繰りに痛み始め好きな野球もできずにいました。ここに来てようやく痛みもほぼいえてきました。50を機に体が生まれ変わると自分に期待しているところです。また、小児科医としてこれまでほとんどが病院にいらっしゃる患者さんを相手にしていましたが、もっと地域に出て行って(自治会、保育園や学校)社会に直接貢献できるようにしたいと思っています。

医師会については、私が昨年その大切さを実感できましたので今年はそれを皆様にお伝えし一人でも多くの会員が医師会に参加していただけるよう活動していくつもりです。

本年もよろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

広報委員(浦添市医師会)
平良 豊

あけましておめでとうございます。

昨年4月から広報委員として活動してまいりました。

沖縄県医師会報の編集、マスコミとの懇談会、年2回の県民を対象とする講演会、「命ぐすい」・「ドクターゆんたくひんたく」の執筆者募集や査読が主な仕事ですが、委員の先生方の精力的な仕事ぶりに圧倒されながら、ついていった1年でした。今年はまだ少し積極的に頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、2012年は政治家たちは政争に明け暮れ、何も決まらず、やっと決めたのは解散と消費税引き上げでした。そうしている間にもソニー、パナソニック、シャープの凋落。デフレの持続と明るいことがほんとに少ない一年でした。唯一ともいえる明るいニュースは山中教授のノーベル生理学・医学賞受賞でした。医師としても誇らしく、日本の医療の将来もさらに発展するものと期待させてくれました。

今年新しい政権がスタートします。国の基本的方向では与野党が協力してほしいものです。そして、経済の減衰、少子高齢化、国家財政の悪化に歯止めをかけ、再び日本を元気にしてくれるよう願っています。

高齢者人口の増加による医療費の増加は毎年1兆円増が見込まれますが、これを消費税の増税だけで賄うことはできません。そのため、医療制度を含めた社会保障制度の改革が必須になり、さらにTPP参加問題も今後クローズアップされてくるものと思われます。いずれも国民の健康を守る我々にとっては大きな逆風です。今後さらに声を大きくして、世界に冠たる我が国の国民皆保険制度を堅持する運動を続けていくことが重要ではないでしょうか。我が国の医療制度を支えているもう一つの重要な因子

は医療者の高いモラルであるとも言われています。病で苦しむ患者の気持ちをしっかりと受け止め、“エビデンスに基づく医療を十分なインフォームドコンセントを行ったうえで提供していくこと”を念頭に置きながら、広報委員の仕事も日々の診療も行っていきたいと思います。



「今年の帯色：紫について」

広報委員（那覇市医師会）
白井 和美

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

新年のご挨拶で会報の帯色に関して書き始めて早3回、今年は紫色について解説します。

古来洋の東西を問わず、紫は高貴な色として尊ばれてきました。紀元前から中国では紫を好み、その影響を受けわが国でも聖徳太子が定めたとされる冠位十二階で、紫は最高位を表す色とされました。当時の日本や中国、朝鮮半島では、紫草の根、紫根による染色が行われていました。その草が群がって咲く様から「群ら咲き」と呼ばれ、「紫」に転じたと言います。美しい紫色の染色には大量の紫草を要し、大変貴重でした。平安時代の貴族たちにとって紫は、「高貴、気品、優雅、なつかしさ、なまめかしさ」を合わせ持つ憧れの色で、古今和歌集、源氏物語などの王朝文学に盛んに用いられたことはご存じの通りです。

西洋では紀元前1,600年頃より地中海沿岸でプルプラと呼ばれる貝の分泌液を使った染色が行われていました。「パープル」はこの「プルプラ」が語源となっています。この染料は日本では「貝紫」と呼ばれ、1グラムを得るのに2,000個の貝を必要とするため、貴族や王族が独占していました。紫を自由に使えることは権力の象徴であり、「エジプトの誇り高き王妃クレオパトラが自分の船の帆を貝紫で染めていた」という話は有名です。

紫が好きな人は、感性や直感力に優れ、高貴で美意識が高く、神秘的な雰囲気をもつ様です。紫を選ぶのは、疲れがたまっている時や、気分が晴れない時に多く、それは紫が自然治癒力を高める色だからだそうです。なんと、DNAの修復促進作用があるという報告もあります。生理作用としては催眠作用、リラックス効果がある一方、孤独感を感じさせる、不安、ストレスを蓄積するとも言われています。

医学領域では、指尖や口唇部などの紫色の色調変化は循環障害や換気不全のサインとされますし、紫斑病という病名などもあり印象はあまり良くありません。しかし、パープルリボン運動は膵がんの啓発と撲滅を目指す運動で、治療成績の向上とともに広く認識されるようになってきました。また、女性への暴力被害根絶運動の象徴でもあります。

最近話題の東京スカイツリーのライトアップが江戸紫色で、これは日本の粋を象徴したものだそうです。確かに菖蒲・杜若・紫陽花・藤・桔梗・堇など日本を代表する花の色も紫色と気付きました。

さて、広報委員会で今年の帯色を決定した時、委員に疲れが貯まっていた訳ではないと思いますが、皆様には癒しの色としての効果があれば幸いです。



「想・創・奏
(そう・そう・そう)！」

広報委員（南部地区医師会）
照屋 勉

あけましておめでとうございます。昨年は、「オスプレイ配備・日米地位協定などの基地問題!」、「尖閣諸島・竹島・北方四島などの領土問題!～そして、反日デモ!」、「離合集散・合従連衡!～迷走を続ける政局!」、「遅々として進まない原発問題・震災復興!」、「消費税増税・TPP・日中韓

FTA・アジア広域 FTA (RCEP)・エネルギー問題・社会保障と税の一体改革・国の借金・日本経済の衰退・雇用問題・デフレ脱却・金融緩和の是非！」etc…、マイナスイメージのキーワードを羅列せざるを得ない一年でした。解決の糸口さえ見えない無理難題が「空回り！空回り！」…という少し寂しげな新年の始まりであります。

さてさて、平成 25 年、今年の小生のテーマは、「**想・創・奏（そう・そう・そう）** by 地井武男氏。「何かを“**想**”い、その想いを“**創**”り上げ、それを“**奏**”でて感じてもらう！」…という意味です。例えば…、①「もっと病院に“**癒し**”を！：by パッチアダムス氏（ホスピタルクラウン～道化師！）」。②「あなたが人のために使える“**時間**”、それがあなたの“**命**”です！：by 日野原重明先生（“**新老人の会**” 会長！）」。③「相手の言葉に心を開き、耳を傾ける！：by ダライ・ラマ 14 世（“**耳順**”・“**傾聴力**” のすすめ！）」。④「“**感謝**” と “**責任**” ！：by 山中伸弥氏（iPS 細胞～ノーベル医学・生理学賞受賞！）」。⑤「“**掃除**” に学ぶ！：by 鍵山秀三郎氏（“**イエローハット**” 創業者～“**日本を美しくする会**” 相談役！）」。⑥「“**我逢人**”（我、人と逢うなり！）：by 道元禅師（人と逢おうという“**心**”を大切に！、人と逢える“**時・場所**”を大切に！）。⑦「置かれた場所で咲きなさい！：by 渡辺和子氏（ノートルダム清心学園理事長）」。⑧「**医者**は、ただそこにいるだけでいい！：by NHK “**梅ちゃん先生**”」。⑨「**な～、職分、職分！**：by “**沖縄の黄金言葉**”（それぞれ、できることをしっかりやりなさい！）」。⑩「**Up to you！**（全てはあなた次第！～意識すると、“**チャンスは平等！**”）」。最後に、⑪「“**信念**”とは…、“**今**”の“**心**”を“**信**”じること！：by 田場珠翠氏（筆文字アーティスト）」。

そう（想）、そう（創）なんです。そう（奏）いう謙虚で前向きな気持ちを大切に、もう少し頑張っていきたいと“こっそり”考えている今日この頃であります。本年も、ご指導・ご鞭撻・ご支援・ご協力・不平不満・叱咤激励など、ゆたしくゆたしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

広報委員
（国療沖縄公務員医師会）
饒平名知史

新年あけましておめでとうございます。

昨年 4 月より広報委員を拝命し毎月 1 回の編集会議に参加させて頂いております。編集会議では不慣れなこともあり、先輩委員の方々の発言を聞いている事が、ほとんどですが、議題にあがる内容は医学的な事柄から医療界を取り巻く社会問題まで多岐にわたり、いろいろと考えさせられるきっかけになっております。今年は広報委員として、昨年より少しは役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



新春の挨拶

広報委員（琉球大学医師会）
金谷 文則

新年明けましておめでとうございます。昨年 2 月に日中医療津梁（沖縄～中国の医療協定、琉大と沖縄県が推進する事業）のために村山病院長、大屋第三内科教授と北京の中日友好病院を訪問しました。中日友好病院は 2,000 床を越え、中庭には日中友好の記念に鑑真和上の像が安置されていました。中日友好病院の設備は琉大附属病院より遙かに優れており、日本からの ODA がかなり使われていると聞き歴史的な背景はあるにせよ、もう援助は不要の感を持ちました。医師の診察料は最低 7 元から最高 200 元まで異なり、手術代金もモニターに表示されていました。同日訪れた中国観光局担当者から 2008 年の北京オリンピックで高速道路を整備したところ、西欧のメディアから沿道が整備さ

れていないことを批判された沿道 20m の住宅を数ヶ月で撤去したと聞きました。日本のようにリニア新幹線の建設に 15 年以上を要するのは時間のかけ過ぎで、中国では土地は国家のものだから 2～3 年で完成できると言われたのには驚きました。その考え方から、私有地であった尖閣諸島をわざわざ日本が国有地にすると宣言したことに過敏に反応したことが理解できるような気がします。

9 月には北京で開催された講習会に講師として参加しました。天気は晴れているのに黄砂またはスモッグのせいか煙く外に出るだけで喉が痛くなるので、部屋で TV を見ていると「奪魚釣島」のニュースばかりで居心地が悪かったのを覚えています。幸運なことに中国各地で頻発した暴動の 2 日前には帰沖することが出来ました。無事に帰沖できたのは良いのですが、日中の医療協力が当面実現不能になったことは残念です。

中国は強い経済成長率を背景に日本に変わってアジアの盟主を自負しており、韓国も日本に対抗意識が強く、日本は外交上難しい時期に来ています。日本の地位向上には、強い経済力の回復が必要であり、何とか私たちの世代で立ち直り、強い日本を再建したいと考えています。本年もよろしく願いいたします。



皇帝内経

広報員（沖縄公務員医師会）
金城 正高

2013 年が始まりました！！

本来ならば年末までに大掃除を終え“気分一新”お正月を迎えるのがいいことはわかっています。今年こそは！と年頭に決意を新たにし、結局いつものパターンで年末を慌しく走り抜け、とうとう今年の元旦を迎えました（それも職場で・・）。後ろを振り返っている暇はありま

せん！（負け惜しみ・・反省はしても後悔はしないぞ！）今日から新しい自分に生まれ変わるんだ！（・・強行突破で心の平静をどうにか保つ）自分を常に省みながら、毎日の一步を大切に邁進したい・・そんな 1 年にしたいものです。

今医局で自分の席にいます。本棚を見上げると、沖縄県医師会報が 12 冊並んでいます。

平成 24 年の会報の帯色は「黄色」。1 年の時間の重みを受け「黄金」にも見えます。毎月の発行を継続することは“本当に凄いことなんだな”と広報委員会の一員として、しみじみ感じています。地道な作業の積み重ねが、県医師会の歴史を作っているんだと自負しながら、今後もし組みんでいきたい・・ちょっと真面目な気分になりました。

そう言えば、清水寺で発表された「今年の漢字」去年は「金」でした。日本漢字能力検定協会が全国から公募して、一番票が多かった漢字が選出されるしくみです。去年は約 26 万票の応募があったようですが、2011 年の「絆」のような、突出した漢字はなかったようです。混沌とした世相が反映されたのかもしれない。2012 年 5 月 21 日には金環日食で空を見上げ（残念ながら今回沖縄では金環は無理でしたが、海邦国体のときにはバッチリ観測できましたよね）、ロンドンオリンピックで金メダルに沸き、消費増税にもやもやした 1 年だったということでしょうか。実は 2000 年にも同じ「金」が選ばれています（オリンピックイヤーでしたね）が、これは初めてのことだそうです。ちなみに 2 位以下は「輪」「島」「領」「乱」「空」「政」「復」「輝」「国」でした。さて、皆さんの漢字はどうでしたか？

今年の会報誌の帯色は「紫」です。きっと広報委員の白井先生が、詳細な分析レポートをされていると思いますので、是非ご一読下さい。皆さんの本棚に新しい色彩が仲間入りし、癒しをお届けできたらと願っております。

医局の娯楽室に移動しました。今テレビの CM から「女性は 7 の倍数」「男性は 8 の倍数」で身体に変化が訪れる・・と語っています。出典は、現存する中国最古の医学書『皇帝内経（こ

うていだいけい』のようです。今年の＜新春干支随筆＞…同期が多いな～と思ったら、私も今年「8の倍数」でした。

人の一生のライフサイクルを「節目年齢」で検証し、自分の体の変化が早まっていたりしないか確認することも、必要なのかもしれませんがね。これまでを振り返っても、自分自身の健康には無頓着なところがありました。自分自身を大切に思う気持ちを具現化し“自分のために行動する”ことを今年目標の一つにしたいと思っています。

一体どんな1年になるのでしょうか。皆さんの感じるワクワク感を、是非会報誌で共有したいものです。忌憚ないご意見、アイデアをお待ちしております。その際には「巻末のはがき」をご活用下さい。今年もよろしくお願ひ致します。



新年を迎えて

広報委員(那覇市立病院医師会)
友利 寛文

あけましておめでとうございます。

会員の皆様は、いかがおすごしでしょうか？

昨年はいろいろなことがありました。私事でいえば、この広報委員になったことです。いままですら県医師会の医師会報を何気なく読んでいたのですがいろいろな方が関与して出来上がっていく姿を関係者の一人としてみていくと隅から隅まで読まなくては…とと思ってしまいます。市立病院関連ですと首脳陣の入れ替えがありました。院長・副院長と新たな顔ぶれとなり4月よりスタートしています。那覇市長も再任されこれまで通り市立病院を支えていただいています。

沖縄県といえば、史上最大規模の台風が何度も近づいてきました。また北朝鮮のミサイルの脅威にもさらされました。尖閣諸島問題もクローズアップされましたが、国が買い上げたことで今後解決していくものと期待します。準備中

だった沖縄科学技術大学院大学は昨年より学生の受け入れを開始し今後研究が発展していくと思われます。

日本、世界へと目を向けてもいろいろなことがありました。アメリカ大統領選、ロンドンオリンピックなどもありました。感動もたくさんいただきました。新しく生まれ変わるためには苦しみも伴うことがあるかと思いますがいい方向への変化であることを期待しています。

毎年新年になると気も引き締まりワクワクするのはなぜでしょうか？ただ毎日の繰り返しのはずなのにワクワクしてきます。1月はそういう気をふくんでいるのでしょうかね。

今年は11月に九州医師会医学会があります。前回からもう8年たったとは思えないほど時がたつのは速いものです。会員の皆様のご参加とご協力をおねがいします。

私個人的には、これまでの継続をおこないながら新しいことに挑戦できる1年であればと期待しています。

新しい1年の始まりです。会員の皆様もワクワクしているものと思います。今年1年これまで通りいやそれ以上に医師会を、沖縄を盛り上げていきましょう。

